令和６年度　関東東海北陸農業試験研究推進会議　土壌肥料部会　秋季研究会　開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議　土壌肥料部会長
農研機構中日本農業研究センター温暖地野菜研究領域長　山崎浩道

１．趣　　旨

令和 3 年 5 月に「みどりの食料システム戦略」が農林水産省により策定され、2050 年までの化学肥料使用量 30%低減、有機農業取組面積割合 25%（100 万 ha）等の目標が提示されたことや、近年の肥料・資材価格の高騰等により、緑肥利用技術への関心が非常に大きく高まっている。これまで本研究会では、平成 30 年度に「緑肥利用の現状と将来展望」と題し、緑肥利用による減肥効果や土壌化学性・物理性・生物性改善等の多面的効果について検討を行ってきたが、上記の情勢変化等に伴い、緑肥利用効果の定量的把握や新規機能解明とその利用、あるいは輪作体系への緑肥の効率的導入などが新たに求められている現状にある。そこで本研究会では、緑肥利用に関する新たな技術開発の取り組みについて紹介するとともに、今後の課題、方向性等について検討し、緑肥利用の普及拡大に向けた新たな技術開発の進展に資する。

２．開催日時

令和６年 10 月 21 日（月）13：15　～　17：00（秋季研究会）
10 月 22 日（火）9：00　～　12：30（現地検討会）

３．開催場所

（１）秋季研究会（１日目）
四日市商工会議所　ホールⅠ　およびオンライン
（三重県四日市市諏訪町 2-5、TEL：059-352-8191）

（２）現地検討会（２日目）：9:00 近鉄四日市駅出発、大型バスで移動
１）水田緑肥活用実証地 立毛間播種（三重県鈴鹿市長澤町）
２）畑緑肥活用事例（三重県鈴鹿市山本町）

４．共　　催

関東東海土壌肥料技術連絡協議会

５．プログラム

テーマ：緑肥利用技術の新たな展開

（１）緑豆すき込み法によるダイズシストセンチュウ防除と環境負荷低減へのアプローチ
豊田　剛己 教授（東京農工大学大学院生物システム応用科学府）

（２）戦略的スマート農業技術の開発・改良「緑肥の肥料効果の面的把握とすきこみ方法の改善に基づく減化学肥料栽培技術の開発」の取り組み

１）プロジェクトの概要

唐澤　敏彦　氏（農研機構中日本農業研究センター）

２）水稲→子実トウモロコシ→ダイズ輪換体系へのマメ科緑肥の導入効果

佐藤　孝　教授（秋田県立大学生物資源科学部）

３）緑肥導入における緑肥の細断サイズ、すき込み方法の検討

森　伸介　氏（農研機構中日本農業研究センター）

（３）三重県における緑肥活用に向けた取り組み

堂本　晶子　氏（三重県農業研究所）

（４）全国での緑肥利用事例

和田　美由紀　氏（雪印種苗株式会社）

（５）緑肥作物を活用した土づくりと有機野菜栽培　－生産性の向上と環境負荷低減を目指して－
（※オンライン）

米倉　賢一　氏（有機稲作研究所/伊豆陽なたビオファーム）

（６）総合討議

６．参集範囲

関東東海北陸地域各都県行政・普及・試験研究機関、農林水産省農産局、消費・安全局、農林水産技術会議事務局、関東農政局、東海農政局、北陸農政局、大学、民間企業、(独)農林水産消費安全技術センター、農研機構、その他部会長が認めるもの

７．連絡先

研究会事務局：農研機構中日本農業研究センター 温暖地野菜研究領域　徳田　進一

（TEL：029-838-8814、E-mail：carc-soil_autumn-meeting@ml.affrc.go.jp）

現地検討会事務局：三重県農業研究所　基盤技術研究室　フード・循環研究課　橋爪　不二夫

（TEL：0598-42-6361、E-mail：hashif00@pref.mie.jp）

８．その他

参加申込み、オンライン参加URL等については、事務局より別途連絡する。